潮騒

第23号
平成19年
1月1日

財団法人 日本殉職船員顕彰会
〒102-0083 東京都千代田区麹町四-五
海事センタービル
電話 〇三-三二三四-〇六六二
FAX 〇三-三二三四-〇六八二

戦没船員の碑の右から御製碑・御歌碑・副碑

年頭のご挨拶

財団法人　日本殉職船員顕彰会
会長　相浦紀一郎

あけましておめでとうございます。年頭に当たり、皆様と新春をお慶びするとともに、ひとことご挨拶申し上げます。

旧年中は、賛助会員、協賛会員ならびに関係者の皆様には、当会の事業運営に多大なるご支援ご協力を賜り、お陰さまをもちまして滞りなく実施できましたことを、改めて厚く御礼申し上げます。

顧みますと、六万余人の尊い犠牲を払った先の大戦後六十二年が過ぎ、昭和四十年に慰霊碑建立の気運が起きてから四十一年が経過いたしました。

申し上げるまでもなく、当会の設立目的は、先の大戦で戦禍に倒れ尊い犠牲となられた戦没船員と、戦後のわが国の復興を支えてきた海運・水産業のなかで不幸にして海難や労働災害にあわれ、殉職された船員の慰霊顕彰と遺族援護であります。

ご遺族は高齢化し、現在では子供さんや兄弟・お孫さんへと世代も代わり、戦争の風化が進む中、ややもすればあの悲惨な戦争によって祖国のために犠牲となられた戦没船員への思いも薄れようとしています。加えて昨年七月には近隣国によるミサイル発射事件、九月には核実験を行うなど、海と世界の平和が脅かされようとしています。私達は、二度とあのような悲惨な戦争を繰り返さないためにも、戦没船員への慰霊、顕彰事業の重要性を改めて広く国民に伝えていく必要があると思います。

今後の経済、社会環境は目まぐるしく変化し、当会の事業運営も新年は厳しくなることは明らかでありますが、設立当時の初心に帰り、決意も新たに戦没・殉職船員の慰霊顕彰と、ご遺族の援護に一層の努力を続ける所存でございます。

何卒変わらぬご支援ご協力を賜りますようお願い申し上げる次第であります。

最後に本年が皆様にとりまして実り多い一年となりますよう祈念し、新年のご挨拶とさせていただきます。

第三十七回戦没・殉職船員追悼式は、五月十一日(金)開催。詳細は案内状で

献花式に参列する関係者

終戦記念日の献花式

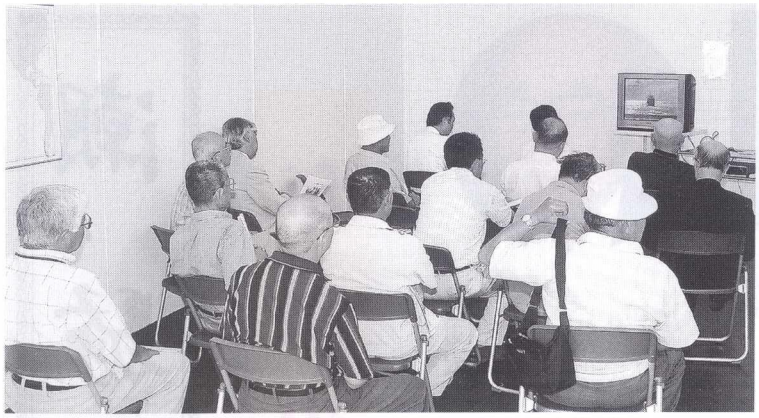
終戦記念日の八月十五日、戦没船員追悼の行事が、例年のとおり横須賀市の観音崎公園内にある「戦没船員の碑」前において、当会の役職員および関係団体代表ら約三十人が参列し、正午から武道館において行われた政府主催の全国戦没者追悼式の進行にあわせて執り行われた。曇り空の天気とはいえ、真夏の暑さに参列者は汗滴る中、全員で献花と黙祷を行い、戦没者の御霊に祈りを捧げた。

海の平和を願い

戦時徴用船遭難の記録画展

仙台メディアテークに一、二〇〇人

戦時徴用船遭難の記録画展は平成十八年九月八日から十三日まで、仙台メディアテークで開催され、六日間で延べ千二百人が来場した。仙台では昭和六十一年七月以来二十年ぶり二回目の開催。戦没船員のご遺族はもちろんのこと生還船員、船員OB、高校生や子供達は、当時徴用された遭難船の最期三十七点の記録画を悲壮な想いを込めて見ており、また、同時に放映した戦争のビデオも真剣に見ていた。



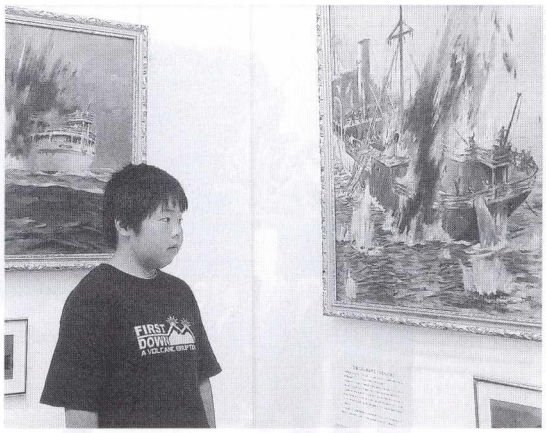
太平洋シーレーン作戦のビデオに見入る来場者

高校二年の佐藤瑠美さん（左）、鈴木彩乃さん（右）

先の太平洋戦争は、西太平洋全域に戦線が拡大され、兵站の輸送や占領地域からの資源輸送のためには、船舶による海上輸送なしには戦えなかった世界戦史に例を見ない「海洋作戦」が中心の戦争でありました。そのために、商船はもとより漁船や機帆船などあらゆる船舶が軍に徴用され、米軍（連合軍）による徹底した海上輸送路の壊滅作戦の前に七千隻を超える船舶の喪失と陸海軍人の損耗率をはるかに上回る六万余人の船員の犠牲者を出しております。

展示した記録の絵画は、海上輸送に従事した船員や船舶の悲惨な実相を伝える貴重な作品で、大阪商船（現商船三井）の嘱託画家故大久保一郎氏が戦時中に描いたものです。

全国各地でこの記録画展を開いている趣旨は、戦没船員のご遺族や関係船員はもちろん、広く一般の方がたにもこの絵画をとおして、戦争の悲惨さと平和の尊さを知って頂くためです。また、未だに戦没船員の碑や追悼式などの慰霊・追悼が関係者の努力で行われていることを知らない遺族の方は沢山います。その方がたにできるだけ知っていただくためでもあります。



小学六年の横田優希くん

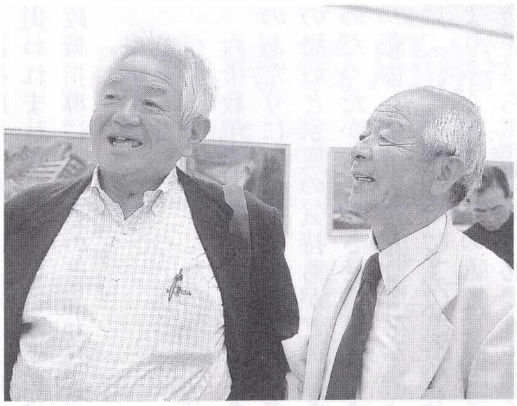
遺族の世代は配偶者が高齢化し、中心は子供へと変わってきております。次の世代に継承するには、小学生・中学生・高校生に実状を理解してもらう必要があります。

記録画展の開催に先立ち、宮城県村井嘉浩知事、宮城県佐々木義昭教育長を訪ね、ご理解とご協力をお願いいたしました。

おばあちゃんと一緒に来たという横田優希君は（仙台市内小学五年）「絵は本物みたいだ、知っているのもある。ぶら忘る丸は学校の図書館で見た」という。また、高校二年生の鈴木彩乃さんと佐藤瑠美さんは「ポスターを見てきました。実際に見る絵で戦争の悲惨さがすぐ心に伝わり、絵にはすごい迫力があります。大きい戦争ばかりやってきたので、平和を強く求めることは良い事だと思う、絵を見るだけでも恐ろしいことだと思うし、二度としてはいけない戦争だと思います」と話してくれました。また、仙台の東日本放送で映像の仕事をしている長谷部牧さんは「写真やビデオでは伝えきれない事実の重みを感じます」と話していました。

記録画展の感想ボックスから

皆さんから多くの感想文が寄せられました。その一部を紹介します。



気仙沼方面から来た岡本日出男さん（左）・佐々木博邦さん（右）

岡本日出男

宮城県本吉郡

私は、海辺に育ち水産学校に入り昭和二十年四月から八月学徒勤労報国挺身隊として三陸沿岸の定置網漁場にて働いた。

昭和二十年七月十四日釜石の艦砲射撃や七月下旬金華山灯台を米潜が浮上砲撃するのも濃霧の中に聞いた最後の戦中派である。

昭和二十年六月頃、鰹船徴用の川印の大功丸（木造一三五トン型）の後部マストを焼損して気仙沼に帰る生々しい姿をも見た。四月頃は松島の零戦が綾里沖まで、また、三沢山田分遣隊の下駄履き（水上機）が交代するのを見たりもした。六月から七月になると船一隻と艦艇一隻が直衛しての航行となった。また、綾里崎附近では米潜に機銃掃射を受けた小型漁船もあったと言う。直衛艦艇が爆撃投射をする生々しい場面をも見た。二十一年戦が終わって遠洋漁業実習(カツオ一本釣)に行った際、錆びつきながら漂流する不気味な機雷を見たりもした。

あれから半世紀、再び海は物騒になった。四海波静かな海がこのままずっと子々孫々と至る道が続く事を祈念します。

佐々木　弘

塩釜市

太平洋戦争はあまりにも犠牲が大きかった。このビデオで見る限り、無謀な戦争と言はざるを得まい。若い方がたも結構見に来ている様ですが、二度とこのような戦争があってはならないと思います。

車塚　わき

多賀城市

昭和二十年八月北朝鮮の羅津の満鉄病院に看護婦として勤務しておりました。ソ連が戦争に加わりましてから一日中空爆でした。それで一般の満鉄の職員、家族は家にかえされました。すぐに兵隊さんや船員の方がたの負傷者がトラックで運ばれてきました。手術の出来る科は全部で一人の方でも多く助けてあげたいと食事も取らずに働きました。夜などは船が燃え上がっているのがすぐそこのように見えました。船員さんの方がたも沢山負傷されて運ばれてきました。菊池さんはその時に部下の方を運んで病院にこられたのだそうです。その時はお目にかかりませんでしたが、帰国致しましてから菊池さんのお話を他の方からお伺いして、本日始めてお目にかかりました。

本日は色いろな絵を見せて頂きまして有難うございます。昔羅津の港で炎上していた船を思い出し悲しくなりました。戦争は二度とすべきでないとつくづく今も思っております。

加賀　洋子

仙台市若林区

民間の船が国に徴用されていたことを初めて知り、また、東南アジアの資源をあてにしていたことも知りました。一言で、戦争は絶対反対です。

この亡くなった人達の為にも私達は世界の人と仲良くして、二度と戦争が起きない、起こさないようにしなければならないと再度思いました。

野田真里奈

市内大学一年生

自分達と同じ世代の人が、戦争中というだけで自分の意思を尊重されることなく死んでいったという事実を、改めて感じ、とても複雑な思いです。

絵に表すということをするにあって生き延びた人の頭の中にも、私達が今回見た絵と同じ映像が、鮮明に残っているのだろうと思います。

長田　武雄

仙台市太白区

はからずも本日メディアテークで開催された大久保一郎画伯の戦時徴用船遭難の記録画展を見ることが出来ました。今より六十三年前の昭和十八年十一月二十七日八時十分、朝食をとり終わり休んでいたところ、ドカンという音とともにわが身が浮き上がり、船内は警報が鳴り、「そうぜん」と化し文字で表すことは出来ない程でした。かろうじて、満員のボートに最後の一人となって乗り移る事ができました。本船の沈みゆく姿をみつつ。それから南海に漂流すること一週間　海軍駆潜艦に救助され、再びラバウルに帰りました。

今回この絵を見させて戴き、当時を思いつつ亡くなられた方がたのご冥福をお祈りし、命ながらいで今日に及んでいることをほんとうに感謝

していています。

小林　二郎（旧姓　藤塚）

仙台市太白区

昭和十八年三月十九日、九時頃、東支那海航行中の高千穂丸（貨客船）三発の魚雷攻撃により沈没。小生は台湾赴任の為、乗船遭難しました。幸いに、二昼夜経て、二十一日早暁、台湾の漁船に発見され救助されました。海軍の護衛もなく、無警告で後方海中より四発の魚雷が発射された。救命ボートを降ろす余裕もなく、海上に投げ出され、ほとんどの船客が失われました。国力を省みず無謀な政策指導によるものと思われます。

星野由美子

仙台市青葉区

六十数年前に遡った生々しさを目のあたりにし、その瞬間の当事者達の思いと家族の気持ちがどの様なものだったかと考えさせられました。

悲惨な事実を風化させないように、今後戦争を起こさないためにも、より多くの次世代の人達に見せる機会を持ち、語り継ぐ必要性を強く感じました。

木村　薫

仙台市青葉区

ビデオと記録画を見ることが出来て、感動しました。

父親が戦死したのが、十才の小学生の時でしたが、それまでは、父親が外国からめずらしいおみやげを沢山持って帰って来るのを兄妹みんなで楽しみにして待っている平和で幸せな生活でした。その幸せをうばった戦争は二度としてはならないと思います。五人の兄弟姉妹を一人で育ててくれた母の苦労は、どんなにか大変だったかと今更ながら思います。

本日はいろいろとほんとうにありがとうございました。

三人姉妹、加藤翠さん（右）、木村薫さん（中）、野々村洋子さん（左）

野々村洋子

仙台市青葉区

戦時徴用船遭難の記録画展に思いがけず出あうことが出来て戦争のこと、父のこと、私たちが子どもだった頃が思い出されました。父は最後に船で仕事をするために家を出る時、船服を着て、えんがわから庭にでて、私たちきょうだいの名前をひとりひとり顔を見ながら、呼んでから出かけていきました。遠ざかって行く父の後姿に向かって「お父さん行ってらっしゃい」と声をかけました。いつもは声をかける度にふりむいて手をふりながら出かけた父なのに、その日は一度もふりむきませんでした。それが最後の父の姿でした。父が船とともに沈んで戦死したことを聞かされてから、沈む時に「父はどんな思いだったのか」と思わずにいられませんでした。ながい間、父や、船で戦死した方がたについて、知る手がかりがなく、何もわからない状態でしたが、この記録画展を見ることが出来てよかったと思います。戦争はなくなって欲しいです。

加藤　翠

仙台市宮城野区

このような展覧会は、初めて拝見しました。父が、日産汽船におり、昭和十九年三月に戦死しましたので、何か父に通じるものを感じました。

生き残った方のお話を聞いて絵に描かれたとのことですが、よく描かれたと感心しております。

二度とこの様な戦争は起こしてはならないとの思いを強くしました。

山岡　京子

仙台市若林区

胸がつぶれる程の痛みを覚えます。

『九条に　鍵をかけます　開けないで』

昨年河北川柳大会で私が読んだ川柳です。十一才の時、終戦をむかえて、六十年平和な時代に生きたこと、幸せに思い多くの兵士の方がたの苦しみの上にこの平和が築かれたこと、みんなにわかって欲しい！

佐藤鉄次郎

宮城県宮城郡利府町

戦時徴用船の最期の姿がとても印象深く感じました。また、大久保画伯の描写がとてもすばらしく、戦争のむなしさ、残酷さが、刻々と胸に迫る思いでした。

この様な貴重な記録画展を見て、現実に世界のどこかで今もなお戦争が続いている時代背景を考えますと、平和を願う気持ちがこの画展を通して身にしみてきます。

今後もこのような企画を全国的に展開していただきたいと思います。

好川　堵雄

仙台市青葉区

いや、全て感動致しました。作品の巧みさもさることながら、作品の真実迫る迫力の表現には是非是非後世に戦禍のありのままの姿を子供達に遺して欲しいものです。

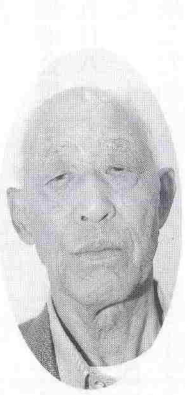
沈みゆく船橋にうつる船長の姿、病院船を攻撃するアメリカ海軍のありのままの姿……涙なみだあるのみでした。

座談会 戦時徴用船と海の平和を語る

戦時徴用船遭難の記録画展終了後の九月十四日、同会場の会議室にて「戦時徴用船と平和の海を語る」と題し関係者に出席を願い、自由に語っていただいた。出席者は
菊地文雄さん
菊池金雄さん
菅野孝雄さん
新関昌利さん
大内建二さん
の五名である。

自己紹介

司会　顕彰会の齋藤です。本日はお忙しい中お集まりいただきありがとうございます。初めに皆さんから自己紹介をお願いします。



菊地文雄さん（八十六歳）

私は元船員をしておりました。戦争当時は、宮城県の唐桑町に住んでおりましたが、今は気仙沼に住んでいます。

菅野孝雄さん（七十五歳）

気仙沼に住んでおりますが、戦争当時は台湾の基隆に五年ほど住んでおりました。父は東和海運に所属しておりました。私は昭和二十一年三月に基隆から、父は二十二年香港から別々に引き揚げました。マグロ船に約二十年乗船、海員組合に二十年ほど勤務しておりました。

新関昌利さん（七十一歳）

昭和十年生まれで、四十年ちかく公立学校に勤めておりました。退職近くにひょっとしたきっかけで戦時徴用船に興味を持ちました。特に漁船に力を入れ調べました。徴用船については、かなりひどい徴用の仕方があったようです。これからの日本の歩むべき道に対しても、その経緯その他の事実をお互いに考えていかなければならないと思っています。少しでもこの史実を伝え残しておきたかったのです。「知られざる漁船の戦い」などを出版しました。これからのため参考になれば幸いです。

大内建二さん（六十七歳）

昭和十四年生まれですが、小学校のころから船が好きで将来は船に乗ろうと思っていましたが、目が悪くて乗船できませんでした。平成十一年定年になって本を書き始めました。父は、気仙沼生まれです。二十六年前に仙台に転勤し住んでおりました。これまで、戦争に関わる本は結構発行されておりましたが、総括的にまとめた本は無かったので始めたものです。

菊池金雄さん（八十六歳）

昭和十五年から大同海運に入社、五隻に乗船しましたが四隻沈没しました。終戦直前北朝鮮の羅津から舞鶴に帰国しました。孫に残しておきたいと思って本を書いて見ました。

一年前に自分史作成の学校に入りました。昭和二十六年に大同海運を退職、海上保安庁に入庁しました。昭和五十六年に退職。それから保護司を十六年務めていました。

体験 徴用された漁船の駆潜艇に乗船

司会　次に皆さんの戦争当時の体験、状況や戦時徴用船に関わる本の作成に至った経緯等お話下さい。

菊地文雄さん　昭和十六年十二月八日暁部隊衛生隊本部に徴用されました。宇品からシンガポールに行くところでしたが、陸軍部隊で検疫業務を担当しておりました。二～三万人の捕虜の検疫業務で八千トンの（元日魯漁業カニ工船）大北丸に乗船しました。消毒は一回に六百人ぐらい行っていた様です。

昭和十七年の二月北九州・台湾経由南方に行く予定でした。南下航海中敵潜水艦も多く他船は雷撃され沈没されていました。シンガポールに六ヶ月ほどおりました。大北丸には十八年七月ごろまで乗船していました。終戦前に駆潜艇第六恵山丸二百五十トン（木造船）に乗船しましたが終戦となった。爆雷を装備していたが、実際の戦闘では被害を受けなかった。駆潜艇は潜水艦対策のもので、そのころは船が不足し、かつお船や、運搬船など船という船はほとんど徴用されたのです。

船長は負傷しながらも船の任務に

菊池金雄さん　昭和十九年十月二十五日八百トンの戦標船に乗船しました。二十四、五日という短期間で完成した船で水漏れなどが発生する船でした。陸軍の徴用船で基隆、シンガポールと行きましたが護衛艦なしで無謀なものでした。

次に乗船した昭豊丸は、至近弾一発でストップ、二発目で浸水、総員退船、日本に帰りました。その後、向日丸六千七百八十二トン、昭和二十年六月乗船、向日丸は難を逃れましたが、他の各船は触雷沈没しておりました。その後、北朝鮮の羅津港に向かいましたが、昭和二十年八月九日ソ連が参戦、爆撃を受けました。その時、次席通信士を上陸避難入院させましたが、攻撃がひどく、われわれも避難のため（上陸）防空壕に入りました。

司令部は適切な指令もしないで、すでに防空壕に入っているというありさまでした。船長は負傷しながらも帰船して船で頑張っておりました。その後出港しましたが、ソ連機の爆撃に遭いながらもどうにか難を逃れました。その時海防艦が護衛していましたが撃沈され、本船がその護衛艦の救助に向かいました。死亡者百名、救助者九十名ほどでした。以後入院した次席通信士が気がかりでしたが、ソ連の侵攻でどうなったか、ダメかとも思っていました。戦後、栃木に行って様子を聞きましたが、分かりませんでした。会社には昭和二十六年まで在社しておりましたが、彼のことはそのままにしており、自分史を書くにあたって、次席通信士の消息を調べ始め、周りまわって日本殉職船員顕彰会に問い合わせ、昭和二十年八月十日戦没されていることを知りました。

当時北朝鮮の羅津で看護婦をしていた車塚さんとの面談についての印象は、苦労話はしたくない様でしたが、満鉄病院は一般患者がすぐ退院させられ、船員さん達が次々に病院に運ばれてきたとのことです。看護婦さん達もソ連の空襲がひどくなり退去させられたとのことでした。

今の自分の心境は十字架を背負って生きてきたという感じです。

61年前を話した車塚わきさん（右）・菊池金雄さん（左）

史実を正しく記録に残したい

新関昌利さん　大型船についての徴用は知っておりましたが、小型漁船も徴用船となったということを気仙沼で聞くまでは知りませんでした。それから四年あまりかけ「知られざる漁船の戦い（宮城の徴傭漁船群）」「続・知られざる漁船の戦い（宮城の徴傭漁船群）」としてまとめました。国がどのような対応をして行ったのかを調査し始めましたが、日露戦争のころから、陸海軍の徴用が始まっています。船名簿、徴用船名簿から調べ上げました。戦没船員名簿を見ても、いつ、どこで、死んだか分からない、というのが三～四割もありました。一ぱい船主でも徴用されています。詳細は分からない部分が多く、調べているうちに過去の生活なり、対応を知るにつれ、現在の遺族の方、子孫の方にその実体を引き継いでいき、結果的にその周辺・縁者の方にあるいは教育されている児童生徒に、具体的な形で、軍人以外にもこんな形で太平洋の広い中に木の葉のように散って行って、未だに分からない人達がおり、これが戦争なんだ、と言う事を教え伝えていきたい。だからこれらについては、これからも絶やすことなく調査を続け、後世に残していきたいと思っています。

私と同じ考えで、日本の教育団体とか先生方が調べてこのことを子供、生徒達にその程度に応じて実践している人もおります。

国旗・日の丸掲揚の問題、国歌斉唱の問題など、片寄った教育の仕方が問われていますが、本当の戦争の姿はどういうものかを、正しく認識した上で、正しい政治をするには何が正しいのかを考えてもらえればよいと思っております。現実・史実を正しく記録に残し、それを理解していただいたその中で正しい認識ができると考えています。それが真の平和につながると思います。

司会　菅野さんは高千穂丸に特に思いいれがあると話しておりますが。どんな関わりがあったのですか。

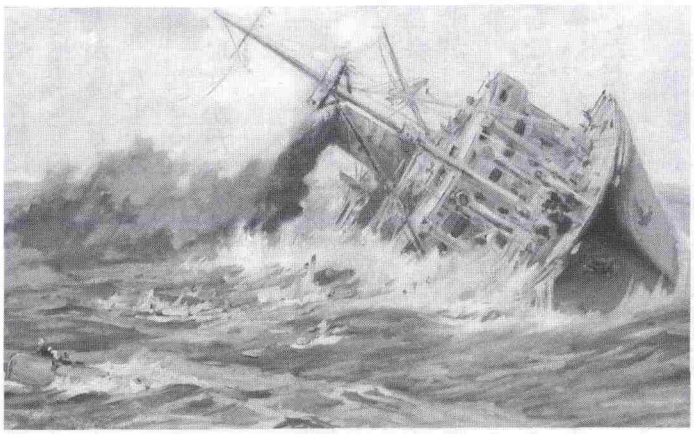
まぼろしの卒業記念アルバム

菅野孝雄さん　高千穂丸に関連づけて申しますと、父は明治三十六年生まれで東和海運に入社していました。

昭和十七年九月基隆から出港直

後、大華丸で魚雷を受け沈没遭難しておりますが助かっています。その後は福建丸に乗船、海南島の沖で遭難し、近くで操業していた漁船に助けられました。さらにその後奄美大島の沖で丹後丸（大阪商船）に乗船していた時に被弾沈没していますが、他船に救助されています。これが父の遭難史です。

家族が台湾に住むきっかけになったのは、大正十四年、親族が気仙沼の小型船で事故があり、新造で出港まもなく、十八名全員が死亡しました。その後、父はやはり大きな船でなければならないという考えもあり、機械部を担当していたことから、



戦時徴用船「高千穂丸」

阪神鉄鋼とか大阪商船の口利きで昭和十四年頃に東和海運という国策会社に入って台湾の基隆に住んだのです。

小学校六年の時のアルバム記念集が、神戸に行って作って持ってきてもらうことだったのですが、持ち帰ってくるべき高千穂丸が基隆近くで、魚雷を受けて沈没しました。その様子が克明に記録画に表現されています。高千穂丸に特段の思い入れがあるのはその理由だったのです。それに当時の同級会があるので、その船の絵画を皆に見せたかったのです。

父は三回沈没しましたが、生還したことは幸運であったとおもいます。慟哭の海、思想教育、軍人に憧れた、そんな想いも当時はありました。

マグロ船にも二十年ほど乗船しましたが、台湾の南を通過するとき、戦争で何人ぐらいの船員が亡くなったのか、など思うと胸が痛む想いがしたものです。台北、台中、高雄、ガランビ岬、バシー海峡、台湾海峡、東は太平洋と思い出されます。

戦死者一隻で四九九九名が最大

大内建二さん　戦時輸送船というものを四冊ほど主題にして書いておりますが、これは日本の輸送船ばかりでなく、世界の戦時にかかわる徴用船も含む内容で本を書いています。特に日本と英国の比較を意識しながら書いています。

戦争についての経験もなく、実際に船に乗っていないので思い入れはまっさらな状態であり、書いているうちに何か見えてくるものがありました。

日本はこの戦争について、ポリシーが無かったように思われます。そのしわ寄せが海上輸送の商船隊であったと思います。当時はプラン・計画はあるが、チェックがなってなかった。そして反省・再計画ということが必要であったわけですが、それがなされていなかったように思われます。

戦後私たちが教え込まれたのは、PDCA（プラン、ドゥ、チェック、アクション）というものでした。すなわち、計画をたてて、実践し、チェックし、更に再計画を立ててまた行動するということを徹底させられた訳です。昭和三十年代、民間会社ではQC活動（クォリティーコントロール）で品質管理が実際に求められていました。このことはアメリカが戦争当時実践していたことなのです。日本ではこの事をやっていません。本を書いていてこのことを痛切に感じました。

英国では日本の様に海軍と商船との仲が悪くなく、非常に良かったのです。英国には長い歴史があり、日本はわずかな歴史しかありません。英国では戦後いち早く、横須賀の観音崎にあるような慰霊碑が建立されていますが、日本では戦後大分遅れた時でした。それは今後の反省でもあり、国についても大きな反省材料になるわけです。

本を書いていて思ったもう一つは、日本の輸送船の積み付けなどの明細、図面、記録などが無い。（便所は、炊事場は、どうなったか分かっていない、逃げ口はどこなのか、なども記録に残されていない）。

海洋船舶画家、上田毅八郎さんは、戦場で利き腕を負傷し左手一本で絵を描いています。絵には命を落とした戦友たちの無念さが偲ばれています。船舶砲兵として八隻に乗船し、七隻が沈没した方です。彼からいろいろ教えていただきました。

戦時は表に出てこない数字がけっこうあります。昔はそのようなことは絶対に話はできなかった。また、機帆船についての記録が残っていないことは、非常に残念です。輸送船が被弾し亡くなった戦死者のワーストワンは、中村汽船の隆盛丸四千八百五トンの四千九百九十九名です。

将兵の輸送について日本は英国などとは全く違い、詰め込みもいいところです。英国はクイーンエリザベス号、クイーンメリー号など八万ト

ン級の客船による輸送で客船の設備を撤去して輸送しました。一万五千人から一万六千人を輸送しております。八千から一万床が限度で、寝る組、起きる組と仕分け、食べる時間の取りかたが大事であったようです。

子供達へ

司会　新関先生は現在教職にありますが、二度と起こしてはならない戦争、平和の海とか、戦時徴用船のことなど、子供、生徒たちに語り教え継いで行く教育面の観点からお話をいただきたいですが。

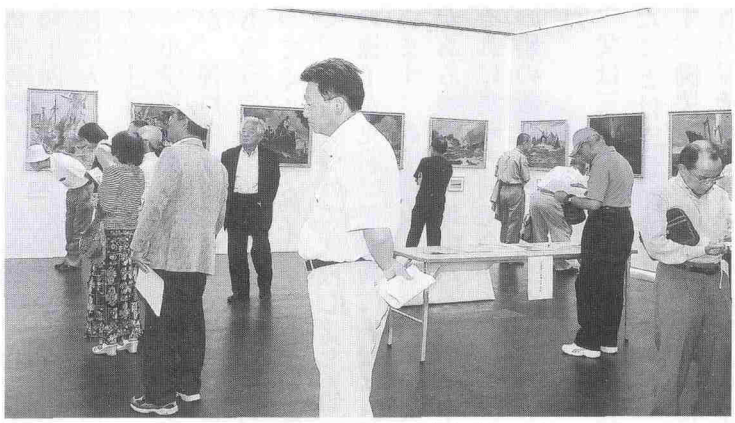
実体を子供達に伝承し　戦争のない世界へ

新関昌利さん　教育の面からといっても簡単にはいきませんが。

小学校は一人の先生が全教科担当です。小学校では五年六年ごろから日本の国の歴史に係わる部分をやや詳しく教え始まります。小学校の場合は通史ではなく、時代の大事な部分についてその時代時代を勉強します。君が代はなぜ国歌なのか、などをテーマにして歴史を勉強するとか、太平洋戦争とはなになのか、などは小学六年から中学一・二年に教えますが、使われる教材が大変重要になってきます。根本的な資料、偏らない思想の資料が必要です。

子供達に戦争と平和について話すとき、戦時徴用船について頭の中にどのようにうえつけていくかということは、結果においては、他の戦争体験者のことや空襲・原水爆のことを教えていることにもつながります。教育現場は教えている内容に片寄っている部分もあり、政治的にも難しい側面があります。

小学校五・六年生では、空襲と国民生活、なぜ空襲されたのか、などというテーマで教えていることもありますが、その空襲の結果どうなって、現代の生活とどう関わりを持つのか、これらは関連あることなので、全部戦時徴用船と根底でつながっているということを考えるとき、戦争をどう教えていくかということと、日本殉職船員顕彰会が行っている戦没船員の慰霊・顕彰とその実体を日本国民へ伝承することによって、結果として理不尽になるような戦争は二度と起こさない、世界に通用する先進国になっていかなければならない、そこに導いていって初めて戦争に対する教育の基本的な面が出来上がってくると思います。戦争のない平和な世界が必要だと導くことが最善だと思います。



記録画に見入る来場者

義務教育プラスアルファーの高校教育の歴史という点においては、実体を知ってどちらにも片寄らない史実を知って、自分で考え、日本はこういう体制の中でこういう歴史をたどり、その中の一部に戦時徴用船があった、ということを知り、戦争を二度と起こさないというのは、ただ平和を訴えてデモ行進などを行なうだけでは駄目なんだと思い、自分たちでできるのは何なんだろうという事を、それぞれにボランティアも含めて実践し、そして選挙運動なり、自分たちの代表を選ぶときの心構えなりを作っていき、どう政治を選んでいくかにつながる考え方の基本を知ってもらえればと思います。

二度と起こさない戦争　海の平和を願う

いろいろと皆さんから貴重なお話をいただきありがとうございました。

当会は、戦没船員・殉職船員の慰霊・顕彰および遺族援護とそれに関わる業務を行っておりますが、大事なことは、「戦争というのは本当に悲惨な結果をもたらす、二度と起こしてはならない、そして、平和の海を希求することは永遠のテーマである」ということを皆さんに知っていただくことにあります。このことは子供達に引き継がれ、更に次ぎの代に引き継がれていくということが重要と思います。

本日はお忙しい中、ご出席いただき本当にありがとうございました。今後とも顕彰会に更なるご協力とご理解をお願いいたします。

（日本殉職船員顕彰会常務理事）　齋藤清伍

投稿

大型タンカー南邦丸の最期

長田　利美（元昭和石油）神奈川県川崎市

第二次世界大戦が始まった昭和十六年十二月八日朝のこと、「日本は必ず負ける」と予言された方の話を聞き、若い私は二心をもつ若者になっていた。

私が満十七歳二ヶ月の昭和十八年五月の時のことだった。生きんが為に否応なしに戦いに協力せざるを得ない状況だった。家庭の事情もあって、職・食・住が完備し平和がきたとき安定して働ける職場として選んだ外航船の機関部船員になった。

初めての航海の時バシー海峡を南下中、アメリカ潜水艦数隻の襲撃を受けたが、船団に被害はなかった。

しかし、魚雷の航跡の少し先を追っていると右舷から数百メートルほど離れたところに細長く黒い物体が見えた。「あっ、あれが魚雷か」と思ったとき、二本が殆んど同時に爆発した。水柱と火柱が同時に空中高く吹き上がった。そして、その水柱は暫く空中に止まってやがて落ちだした。本船が夕日を背にしたときで、落ちだした海水が、霧状に垂れ下がり段々拡がりながら下りてゆくときの迫力、色相等を説明することは、私の文章力では表せない美しさであった。時限魚雷とか・磁気魚雷とか言われる物であったらしい、僚船や本船は爆雷を投下しただけで終了した。「これが戦争なのか、戦争なんだ」と自分に言い聞かせても実感は湧かなかった。

昭和十九年二月十三日、浅間丸を指揮船として、南邦丸・東京丸・能登丸の四隻で内地に向け昭南港を出航したとき、私は能登丸に便乗していた。「戦時船舶史」に拠ると二月二十四日午前三時三十六分頃と記載されていたが、台湾東部花連港の北部沖で潜水艦の襲撃に遭った。私の乗る能登丸の前方の右約一千メートル程の所に浅間丸、その右約一千メートルに東京丸という約一万トンのタンカーがおり、本船とやや平行する形で進行していた南邦丸がいた。能登丸左後方約三十度位から魚雷三本が本船目掛けてくるのがはっきり見えた。本船は何とか舵を右にきり魚雷をかわすことができた。本船の左側を追い抜き進む魚雷三本の航跡が白く見え、一番近いのは本船から十メートルぐらいしか離れていなかった。危うく本船は避けたものの、このままでは南邦丸に必ず命中する角度だった。「おーい、南邦丸、早く舵をきれ。早くしろ」と、我々は悲痛な叫び声をあげていた。南邦丸は能登丸に遮られ、航跡の発見が遅れたのではなかろうか、暫く右に船が向きだしたと見えたと同時に、魚雷が中央よりやや後方に命中してしまった。命中と同時に二本が爆発し、水柱と共に火柱が上がった。と殆んど同時に南邦丸の船倉に引火し、大爆発が起き船が裂けたのだろう、逆「への字」になりはじめ海面も船も火の海となった。惰力で進みながら、燃え盛る光景は口にすることも難しい。その時南邦丸のブリッジの小さなポールに二人の船員が日章旗を掲げ始めたのが見えた。爆発と同時に原油が火と共に海上を走り出した。燎原の火のように拡がっていった。南邦丸の燃え盛る後部左舷から、火の海にバラバラと七、八人の男たちが飛び込むのが見えた。本船は全速力で避難しているので、何も出来ない歯がゆさがあった。指揮船の浅間丸も被雷したのだろう船足が遅くなりながらも我々より遅れてついてきた。段々と明け行く夜の帳の中で、南邦丸の燃え盛る劫火が空に映えていたが、水平線に見え隠れするようになり、夜が明けるとともに、黒煙が微かに見えるのみであった。資料によると南邦丸は爆発と同時に救命ボートで多数の方が退船した。記録では船長は一度脱出しかけたが、再度猛火の本船に引き返したとのこと。推察ではあるが、ポールに揚がって行く日章旗を見て戻ったのではなかろうか。南邦丸と運命を共にされたという乗組員三十七名、兵員十名、便乗者二名のご冥福を祈るのみである。

戦没船員の碑の群像

戦いの陰で黙々と働き、海の藻屑となった船員は六万余人と聞く。

そのうちの一人になるが、小学校の同級生の大胡田進君は昭和十九年の正月迄家業を手伝い家に居たそうだが、その後、親に黙って私の後を追い船員となり二月初めには海の藻屑と化してしまいました。戦没海域・社名・船名が不明だったが、顕彰会の調査でそれが判明した。

「安らかに眠ってください」

後に残された私達は二度と軍靴の足音、砲声の響き、空襲等で逃げ惑うことなどはあってはならないものとして平和そのものを為政者に望むと共に、平和な日本であり続けて欲しいものと願っている。

物故船員慰霊祭に献花

昨年、各地で行われた殉職船員慰霊祭、物故船員慰霊祭に会長名にて献花し御霊のご冥福を祈りました。

さんま漁船乗組員16人の合同慰霊祭・気仙沼

○七月七日　横浜市、赤門東福寺、海の月間横浜地区実行委員会、「物故船員慰霊祭」
○七月十二日　北九州市、真光寺、北九州海の日協賛会「殉職船員無縁塚慰霊祭」
○八月二十日　小樽市、手宮公園、小樽船員ＯＢ会「物故船員慰霊祭」
○八月三十日　気仙沼市、唐桑町海の殉難者慰霊碑保存会「唐桑町海の殉難者慰霊祭」
○十月二十日　福岡市、西公園光雲神社、福岡海寿会「以西底曳網漁船殉難者慰霊大祭」
○十月三十日　能登町　久田船長石碑前　久田船長顕彰会「久田船長碑前祭」
○十一月二十三日　気仙沼市、気仙沼市民会館　山代水産・気仙沼市海難救助対策本部「第七千代丸海難者合同慰霊祭」

ご寄付のお礼

平成十八年七月以降、次の方がたからご寄付をいただきました。厚く御礼申し上げます。（敬称略・順不同）

米山隆昭（東京都北区）
都竹利年雄（東京都杉並区）
三木千代子（香川県丸亀市）
安田八束（神奈川県横浜市）
榊原英之（高知県高知市海友会会長）
熊田高幸（愛知県名古屋市）
日本海事広報協会（東京都中央区）
相澤利雄（宮城県仙台市）
松本慶一（宮城県仙台市）
佐藤健彦（宮城県仙台市）
山口一男（埼玉県さいたま市）
黒川勇二（愛媛県今治市）
菅原輝美（宮城県仙台市）
三浦　功（東京都東久留米市）
宝幸水産トロール船員ＯＢ会（東京都千代田区）
笹谷　明（住所不明）

新加入会員ご紹介

当会は、基本財産の利息収入、日本海事財団の補助金、主要海運会社や関係団体等の賛助会費により運営されております。

しかし、平成十九年度より日本海事財団の補助金は打ち切られ、利息の減少や海運会社の合理化にともなう退会等と相まって厳しい運営を強いられております。

このような中で、ご遺族や関係者のご協力をいただき、慰霊、追悼、援護事業を支える協賛会員制度（年一口三千円）が設けられております。

ご加入いただける場合は、電話、葉書等でご一報下されば、郵便払込取扱票をお送りいたします。ご協力・ご支援よろしくお願いします。

平成十八年七月以降、次の方がたが賛助会員・協賛会員に加入されました。ここに厚く御礼申し上げます。（敬称略・順不同）

◇　賛助会員
全日本海員福祉センター
共同船舶株式会社
日本海洋事業株式会社

◇　協賛会員
菊池保夫、和泉広和恵、矢野敏彦、伊藤圭伍郎、高倉洋子、永宮彌生、斉藤克己、西原和子、桜井　正、相澤勝利、相澤禎一、新妻正吉、原田章子、木村　薫、山上隆三、野々村洋子、菊地美子、橋本匡弘、水野俊磨、小原勝美、紺野敏男、酒井章雄

役員・評議員の一部変更

十月三十日の評議員会、三十一日の理事会において、当会の役員および評議員の一部が変更されました。

［理事］
新任　草刈　隆郎　日本郵船（株）代表取締役会長
本田　隆文　（社）日本旅客船協会理事長
退任　鮫島　宗和

［評議員］
新任　井上　晃　（社）日本船主協会常務理事
小島　充嗣　（社）日本海員掖済会常務理事
退任　梅本　哲朗
大木　義男

殉職船員遺族援護事業

保護者からのお便り

島根県　上田　三千代

先月は、初めての援護金を送金して頂き、本当に有り難うございました。子供達は、まだ春休み中なのですが、部活等に頑張っております。この四月には、姉が関西の方に就職で旅立って行きました。だんだんと子供の数も減ってゆきますが、末っ子の男の子が旅立つまで、精一杯頑張って行こうと思っています。

高知県　岡元　美紀

いつもありがとうございます。主人が亡くなって早十年がたちました。義父母もすっかり年をとってきましたが、その分、子供達がしっかりしてきて、何かとおじいちゃん、おばあちゃんの手助けをしてくれるようになり助かっています。このまま、やさしい思いやりのある子に育ってほしいと思います。

長崎県　濱本　さつき

いつもお世話になっております。部活動も八月で終わり、受験に向かっていました。夏休みから毎日、机に向かけて、夏休み明けの試験では、希望校合格ラインまで点数をあげることができ、一安心でした。

徳島県　鎌野　智美

いつも、お世話になります。子供二人、元気に過ごしています。姉は中学二年生に、妹は小学5年生になります。二人それぞれ部活(吹奏楽)でトランペットの練習にがんばっています。これからもよろしくお願いします。

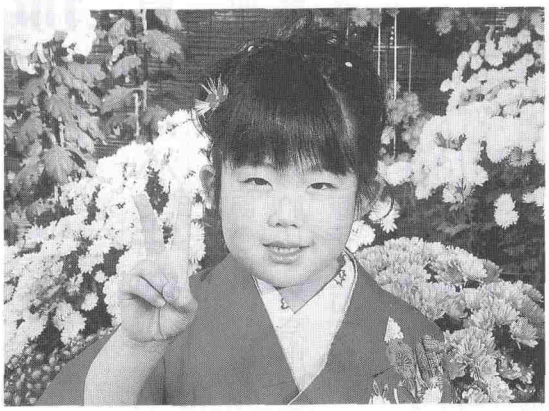
佐賀県　大鋸　美穂

病気やケガなどなく元気に保育園に通っています。

四月からピカピカの一年生です。「ランドセルの色は水色がいいっ！」とはりきっています。

主人が亡くなってから六年になりますが、親子共ども病気やケガもなく、元気に過ごしています。

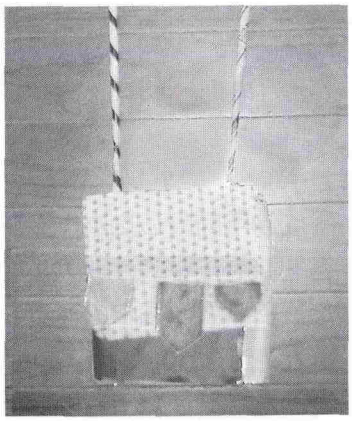
これからの成長も楽しみです……今後ともよろしくお願いします。



大鋸　末夢ちゃん

宮城県　阿部　悦子

日々ありがとうございます。上の子は部活も終わり、いよいよお受験モードに突入しました。下の子は、来月の学芸会にむけて毎日がんばっています。いつも援護金をありがとうございます。大切に使わせて頂きます。



大竹愛梨ちゃんと愛梨ちゃんがお母さんにプレゼントした手作りのポシェット

三重県　大竹　初美

送金ありがとうございます。

先日は、子供達それぞれ運動会に、元気に参加することができました。子供達の頑張っている姿に、また一年分成長したなぁ……と実感すると共に、嬉しい気持ちで一杯でした。

主人が亡くなった時、長女が五歳、次女が一歳でした。あれから五年、子供を立派に育てるのが私の責任と思い今も子育てに奮闘中です。長女は、五年生になり、かなりしっかりしてきました。重い荷物運びやちょっとした夕飯の手伝いもしてくれるようになりました。次女も、来年は小学校へ入学です。最近ふと「四人家族がよかった」というようにもなってきました。負けん気が強いので、お姉ちゃんとよくケンカもします。またよく喋り、よく食べ、いつもにぎやかで元気一杯です。十一月十九日七五三のお宮参りに行きました。

まだまだ、二人とも甘えん坊ですが、日々の生活の中で、五感を通して色いろなことを感じ、学び、心の優しい子供に成長していって欲しいと思っています。

宮城県　中野　幸枝

援護金ありがとうございます。

家族みんな変わりなく生活しています。上の子供は文化祭に向けて頑張っています。下の子供は、毎日毎日、野球の練習に励んでいます。

海の日

記念清掃・献花

横須賀海洋少年団

七月十六日の日曜日、横須賀海洋少年団、団員OB、父母の会、殉職船員顕彰会役職員の総員三十三名が参加し、神奈川県横須賀市観音崎にある「戦没船員の碑」の清掃と献花を行った。

梅雨明け前で暑さもなく、清掃には適度な天候にめぐまれ、少年団員たちは、慰霊碑の雑巾がけや、碑の前の掃除と、汗を流しながら一生懸命頑張っていた。団員OB、父母の会の方がたも子供達と一緒に、約一時間半で碑の前を綺麗に仕上げた。

戦没船員の碑、みんなできれいに

清掃終了後、碑の前に整列した少年団員に、臼居勲理事長から労いのことばと、戦争で亡くなった人、船で仕事上亡くなった人の慰霊と顕彰について説明をした。その後、参加者全員で献花を行った。

木下憲司団長から、団員たちに対し「戦没船員の碑」は皆で大事にしていこうとの話がなされていた。また、天皇陛下の御製、皇后陛下の御歌についても解説し、団員たちは昨年と違った団長の話に耳を傾けていた。傍らに父母の会の方がたもご一緒していたのが印象的だった。

一生懸命働いた少年団員たちの昼食中、清掃の感想を聞いてみた。

今日の掃除どうでしたか。

楽しかった。
平　周平君　高阪小五年
阿久津あいさん小原台小二年
大変だった。
松本里美さん　小原台小五年
戦争で亡くなった船員さんの話しを聞いてどう思いますか。
安らかに眠ってほしい。
森田将輝君　豊島小
かわいそうだ。今は平和であり、昔の事が信じられない。
小野瀬陽光君　鴨居中二年

事務局より

ご投稿お待ちしております。

本誌は皆様からのご投稿をお待ちしております。内容は随想、感想、本誌を通じてのご遺族や関係者の交流など自由です。字数に制限はありませんが、出来れば千八百字程度にとりまとめ、関連の写真がございましたら同封いただければ幸いです。

なお、投稿は当会で若干修正させていただく場合もございます、あらかじめご了承下さい。

お知らせ　ホームページを更新

平成14年開設したホームページの内容を11月にリニューアルいたしました。終戦六十周年の写真、財務諸表などを新たに掲載いたしましたので、どうぞご覧下さい。

編集後記

昨年九月に開いた戦時徴用船遭難の記録画展には、千二百人もの来場者があり、絵画に見入り当時の話をしながら涙を浮かべ帰る人もおりました。その方がたに接し戦争の悲惨さを改めて感じました。

今号では、特にスペースを使い、皆さんの感想など掲載致しました。感想を寄せられた方がたに厚くお礼申し上げますと共に、全員の方が載せられなかったことをお許し下さい。

戦時徴用船と海の平和を語る座談会、記録画展にご来場の多くの方は、子供たちにも見せてやりたいとのお話が多かったことから、教育面にもふれていただきました。戦争の史実を子供達の将来に継ぎ、戦没船員・殉職船員の慰霊顕彰を行い二度と戦争のない平和の海を保っていきたいものです。（齋藤）

ホームページ http://www.kenshoukai.jp　Eメール kenshoukai@isis.ocn.ne.jp